

※下表の空欄に環境配慮設計の概要をコメントしてください。

配 慮 項 目	評価点	重み係数	内 訳			
<b>■1. 「地球温暖化対策」の推進</b>						
<b>1.1 建物の熱負荷抑制</b>						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 ・断熱効果の高い外壁を採用	3.0	0.78	Q1 室内環境	2 温熱環境	2.1 室温制御	2 外皮性能
	0.0	0.00				
	3.4	0.22	LR1 エネルギー	1 建物の熱負荷抑制		
小計	3.1	0.04				
<b>1.2 自然エネルギーの利用</b>						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	3.4	1.00	LR1 エネルギー	2 自然エネルギー利用		
小計	3.4	0.06				
<b>1.3 設備システムの高効率化</b>						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。□ ・高効率空調機器、照明器具の採用	4.0	1.00	LR1 エネルギー	3 設備システムの高効率化		
小計	4.0	0.32				
<b>1.4 設備システムの効率的運用</b>						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	3.0	0.50	LR1 エネルギー	4 効率的運用	4.1 モニタリング	
	3.0	0.50	LR1 エネルギー	4 効率的運用	4.2 運用管理体制	
小計	3.0	0.13				
<b>1.5 資源・マテリアル対策</b>						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。□ ・節水型水栓、節水型便器の採用 ・躯体と仕上材が容易に分別可能となっている	4.0	0.10	LR2 資源・マテリアル	1 水資源保護	1.1 節水	
	3.0	0.11	LR2 資源・マテリアル	1 水資源保護	1.2 雨水利用・雑排水再利用	1 雨水利用システム導入の有無
	3.0	0.05	LR2 資源・マテリアル	1 水資源保護	1.2 雨水利用・雑排水再利用	2 雑排水再利用システム導入の有無
	2.0	0.08	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.1 材料使用量の削減	
	3.0	0.15	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.2 既存建築躯体等の継続使用	
	3.0	0.15	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	
	1.0	0.15	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	
	2.0	0.08	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.5 持続可能な森林から産出された木材	
	4.0	0.15	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	
小計	2.8	0.32				
<b>1.6 ライフサイクルCO2排出率</b>						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 ・LCCO2=86%	3.5	1.00	LR3 敷地外環境	1 地球温暖化への配慮		
小計	3.5	0.13				
<b>1. 「地球温暖化対策」の推進の評価</b>						
	<b>3.3</b>	<b>0.71</b>				
<b>■2. 「ヒートアイランド対策」の推進</b>						
<b>2.1 温熱環境の向上</b>						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	1.0	0.51	Q3 室外環境(敷地内)	1 生物環境の保全と創出		
	3.0	0.26	Q3 室外環境(敷地内)	3 地域性・アメニティへの配慮	3.2 敷地内温熱環境の向上	
	3.0	0.23	LR3 敷地外環境	2 地域環境への配慮	2.2 温熱環境悪化の改善	
小計	2.0	0.96				
<b>2.2 交通負荷抑制</b>						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	1.0	1.00	LR3 敷地外環境	2 地域環境への配慮	2.3 地域インフラへの負荷抑制	3 交通負荷抑制
小計	1.0	0.04				
<b>2. 「ヒートアイランド対策」の推進の評価</b>						
	<b>1.9</b>	<b>0.21</b>				
<b>■3. 「長寿命化対策」の推進</b>						
<b>3.1 耐用性の向上</b>						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 ・配管材料は上位3種の内、2種がB以上、Eは不使用	3.0	0.18	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.1 耐震・免震	1 耐震性
	3.0	0.27	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.1 耐震・免震	2 免震・制振性能
	3.0	0.11	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	1 躯体材料の耐用年数
	3.0	0.11	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	2 外壁仕上げ材の補修必要間隔
	3.0	0.05	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔
	3.0	0.05	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	4 空調換気ダクトの更新必要間隔
	5.0	0.11	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	5 空調・給排水配管の更新必要間隔
	3.0	0.11	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	6 主要設備機器の更新必要間隔
小計	3.2	0.58				
<b>3.2 設備の更新性</b>						
(コメント) ※設計の計画に特段に配慮した事項を記載してください。	3.0	0.20	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	1 空調配管の更新性
	3.0	0.20	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	2 給排水管の更新性
	3.0	0.10	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	3 電気配線の更新性
	3.0	0.10	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	4 通信配線の更新性
	3.0	0.20	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	5 設備機器の更新性
	3.0	0.20	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	6 バックアップスペースの確保
小計	3.0	0.42				
<b>3. 「長寿命化対策」の推進の平均点(上記2項目)</b>						
	<b>3.1</b>	<b>0.08</b>				
<b>■重点項目の総平均(上記3項目)</b>						
	<b>3.0</b>					